

「今週の1枚」



テイカカズラ （キョウチクトウ科）

つる植物の多くは、樹木の正常な成長を妨げることが多いので、森林を育成する場合には駆除の対象となります。特に、スギやヒノキの造林地では、若い時代に「つる切り」を定期的に行なわないと樹冠部の偏り、幹の変形の原因となり、良質な材木を得ることができなくなります。テイカカズラの場合も例外ではなく、若い樹木の成長にとっては大敵です。しかし、テイカカズラは幹に巻きつくだけでなく、地面をはって地表をしっかりと抑え、土壌を守る働きがあります。ヒノキ林のように、落ち葉が雨に流されて無くなってしまう場合には特に有効です。

低地ではもう花の季節が終わりに近づきました。石垣などでは花を近くで見ることができます。筒状の白い花の先は、5枚に分かれ、少しねじれて、扇風機の羽のように見えます。名前の由来は、百人一首でおなじみの藤原定家の「テイカ」ということになっていますが、理由はわかりません。（埴田）

（No.4 2001.6.25 掲載）